

発掘 やまがた 最前線

平成 18 年度 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会資料

平成 18 年 12 月 16・17 日

山形国際交流プラザ山形ビッグウイング

主催：財団法人山形県埋蔵文化財センター

共催：山形県教育委員会

後援：遊佐町教育委員会・東北芸術工科大学

発掘やまがた最前線

平成18年度 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会

日 程

受 付 9:30

開 会 10:00

調査報告

		目 次	
1	中山城跡	10:15 ~ 10:40	山形の遺跡と日本の歴史 1
2	行司免遺跡	10:40 ~ 11:05	発掘調査遺跡位置図 2
3	岩崎遺跡 質疑	11:05 ~ 11:30 11:30 ~ 11:40	発掘調査遺跡一覧表 3
	昼食休憩	11:40 ~ 13:00	中山城跡 第2次 4
4	高安窯跡 (東北芸術工科大学)	13:00 ~ 13:25	行司免遺跡 第3次 6
5	矢馳A遺跡	13:25 ~ 13:50	岩崎遺跡 8
6	下叶水遺跡 休憩	13:50 ~ 14:15 14:15 ~ 14:40	高安窯跡 10
7	石畠遺跡	14:40 ~ 15:05	矢馳A遺跡 第3次 12
8	小山崎遺跡 (遊佐町教育委員会) 質疑	15:05 ~ 15:30 15:30 ~ 15:40	下叶水遺跡 14
	閉 会	15:40	石畠遺跡 16
			小山崎遺跡 18
			上野遺跡 第2次 20
			中川原C遺跡 第4次 21
			檜原遺跡 第1次 22
			檜原遺跡 第2次 23
			上大作裏遺跡 24
			天王遺跡 25
			加藤屋敷遺跡 26
			稻荷山館跡 第2次 27
			山ノ下遺跡 28
			興屋川原遺跡 第3次 29
			木ノ下館跡 第3次 30
			玉作1遺跡 第2次 31
			南田遺跡 32
			企画展 発掘された被災遺跡 33

◇岩崎遺跡の報告終了後に遺物展示会場において企画展の説明を行います。

◇遺物展示コーナーは

16日(土) 13:00 ~ 17:00

17日(日) 9:30 ~ 15:00

まで行います。

◇縄文体験コーナーは、人数制限があります。以下の時間で行います。

16日(土) 13:00 ~ 17:00

16:00 受付終了

17日(日) 9:30 ~ 15:00

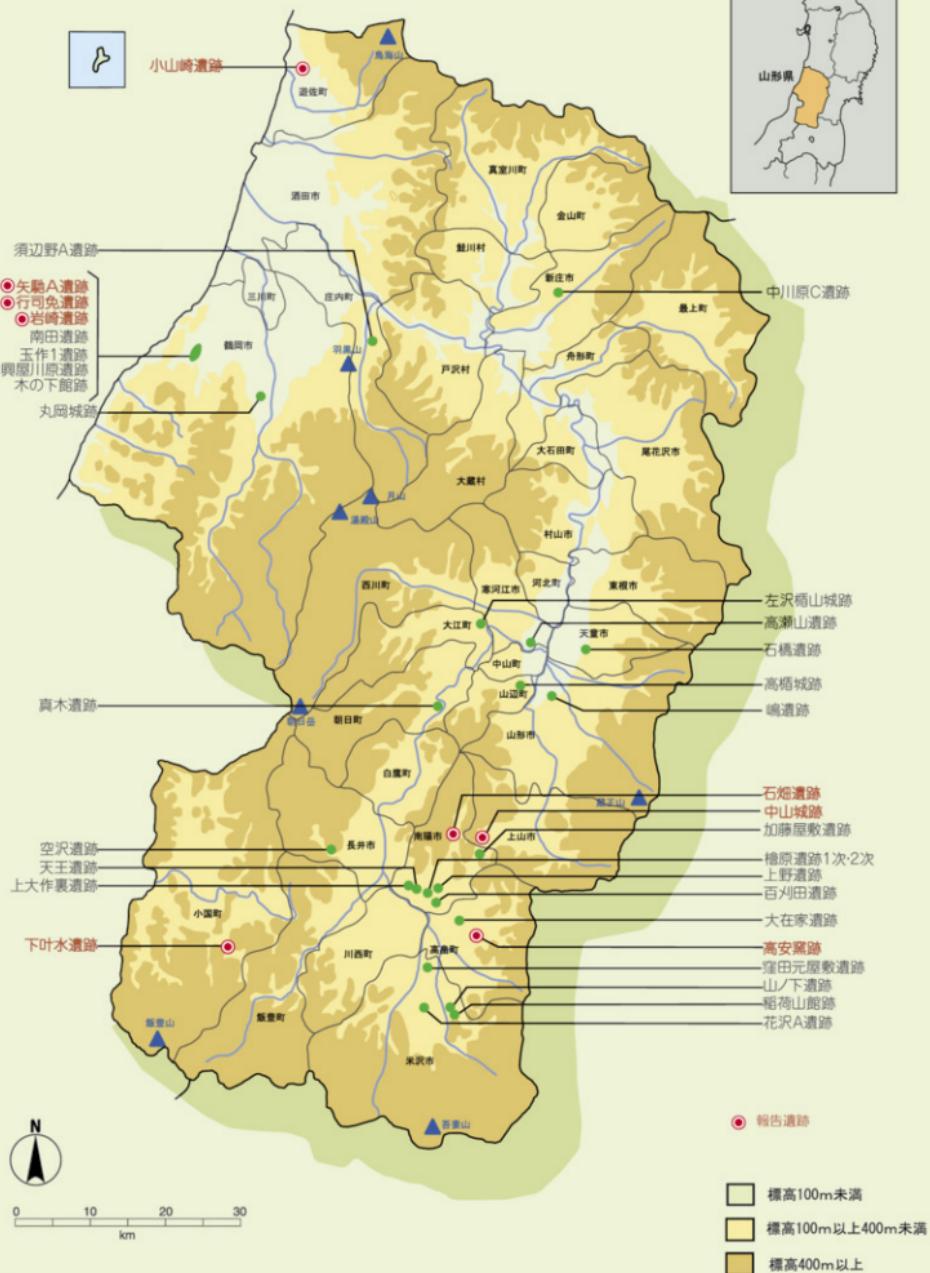
14:30 受付終了



山形の遺跡と日本・世界の歴史

年	時代	平成18年度発掘調査遺跡	島内の主な遺跡	山形県の歴史	日本の歴史	世界の歴史		
約8万年前	旧石器時代	高木道跡(朝日町)	上屋地(飯豊町) 越中山地(鶴岡市) 小国葉山(小国町)	喜山(東川町) 奥谷原林(西川町) 角山原(大石町)	山形県に人が住みつき、島内で産出する良質な石器で作られたナイフを使つ	日本列島に人が住みつき、石器を使つて骨器などをとして生活する	原人 旧人 新人	
約10,000年前	新石器時代 中期		八森(酒田市) 白山(西川町) 五城岩原(高畠町) にひく寺(山形市) 福原川(藤尾町)	山内(西川町) 立京洞(高畠町) 五山(西川町) 尾花沢(西川町) 木舟(南陽市)	弓削土器を使う人が山内洞穴などで生活を始めた 翌住居には小集落が形成される 漆器を使って文様を描いた土器がつくれられる	弓削土器がつくられる 土器(ヨリ)がはじまる	農耕牧畜が起こる	
約6,000年前	前半期		唐寺町(大石町) 神出(高畠町)	小林八(東根市) 久次(酒田市)	計画的な大集落があがわれる	縄文海進が進む 漁獲活動が盛んになる 豪族大規模林立が広がる	エーゲ文明始まる	
約5,000年前	後半期 文 中 期	川中島C遺跡(新庄市) 空気瀬遺跡(米沢市) 石経瀬遺跡(南陽市) 花沢A遺跡(米沢市)	水木田(最上町) 西瀬潟(村山町) 西ノ瀬(舟形町) 中台4(真室川町) 小林B(東根町)	中庭施(山形市) 西向(鶴岡市) 櫛原の湯(山道町) 山道町(山形市) 中村A(村山町)	大型住居に板式がつられる	開拓方に大型貝塚があがわれる	楔形文字が使われる	
約3,000年前	後 期	小山崎遺跡(酒田町) 石経瀬(南陽市) 作野(山形市) 北郷1(山形市)	川口(村山町) 糸子田(大庭町) 郡部(上山町) 鳥原(山形市)	津谷(戸沢村) かねば(最上町) 木内(米沢市)	坐落が減少する 中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんにつくられる	ビラミッドが作られる	
約2,300年前	弥生時代	西刈田遺跡(南陽市) 石経瀬(南陽市) 上太上作遺跡(南陽市)	北郷1-2(山形市) 西高(山形市)	石右2(酒田市) 南高(南陽市)	木の小屋がはじまる 機械がはじまる	古墳文化が栄える 九州で木の小屋がはじまる	殷王廟がおこる ソクタスが死ぬ 孔子生誕	
約1,700年前	古墳時代		横田(鶴岡市) 宮町(山形市) 今塚(山形市) 麻塚(山形市) 西沼田(山形市) 久慈懸(鶴岡市) 物見台(中山町) 南草(高畠町) 鹿(高畠町)	近石足平(米沢市) 神森内岡(西川町) 藤森古鼻(南陽市) 今井(山形市) 馬場塚(山形市) 大内越(山形市) お花山古墳(山形市) 狂翁(山形市) 大木(山形市) 梅(山形市)	島内最大の前方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつられる 小規模な古墳群がつられる	古墳文化が発達する 前方後圓墳がはじまる	アラカルティダ王生誕 エウサウルス陵 ダーリン民族大陸	
約1,300年前	飛鳥時代	寛富元年鹿渕遺跡(米沢市) 玉作1遺跡(鶴岡市) 失恵A遺跡(鶴岡市) 若崎遺跡(新庄市) 美田遺跡(鶴岡市) 荒瀬山遺跡(寒河江市) 轟道跡(山形市)	北口吉(高畠町) 安津津(高畠町) 一色鹿古墳(南陽市) 西沼田下(米沢市) 一之坪(山形市)	近石足平(米沢市) 神森内岡(西川町) 藤森古鼻(南陽市) 今井(山形市) 馬場塚(山形市) 大内越(山形市) お花山古墳(山形市) 狂翁(山形市) 大木(山形市) 梅(山形市)	飛鳥都が建設される(708年) 飛鳥宮が造営される(708年) 飛鳥宮が完成される(712年) 飛石壁が焼田村高瀬水門に移動する(733年)	飛鳥都が建設される(708年) 飛石壁が造営される(708年) 飛鳥宮が完成される(712年) 飛石壁が焼田村高瀬水門に移動する(733年)	古墳宮が都をつく(710年) 東大寺の大仏開闢(752年) 長岡宮が完成される(764年) 宝宣院が都をつく(774年) 坂上田村麻呂が船舟を平定する 飛石壁がはじまる(797年) 羽柴城をつく(802年)	アラカルティダ王生誕 エウサウルス陵 ダーリン民族大陸
約1,200年前	奈 後 代	大在冢遺跡(高畠町)	猪木木(山形市) 大通池(米沢市) 城跡櫛(山形市) 佐田(山形市) 西沼田(山形市) 三 条(東河原町) 平野山(寒河江市) 川原2(山形市・中野市) 谷筋(山形市) 小松屋(山形市) 中 里(米沢市) 一ノ坪(山形市) 山地塚(山形市) 的 場(大庭町) 今 塚(山形市)	志村古墳(山形市) 手取古墳(山形市) 手取古墳(山形市) 山堂塚(山形市) 山堂塚(山形市) 志村古墳(山形市) 不破木(河北町)	大在冢が造営される(765年) 大通池が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 手取古墳が造営される(765年) 手取古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年)	大在冢が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 手取古墳が造営される(765年) 手取古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年) 志村古墳が造営される(765年)	平城宮に都をつく(710年) 東大寺の大仏開闢(752年) 長岡宮が完成される(764年) 宝宣院が都をつく(774年) 坂上田村麻呂が船舟を平定する 飛石壁がはじまる(797年) 羽柴城をつく(802年)	李白・杜甫らが活躍
約800年前	鎌 倉 時代	加藤屋敷遺跡(南陽市) 天王道(南陽市) 上大作遺跡(南陽市) 唯原遺跡(南陽市) 刈田遺跡(南陽市) 西沼田遺跡(寒河江市) 轟道跡(山形市) 上野塚(南陽市) 若崎遺跡(鶴岡市) 荒屋塚(鶴岡市) 大通池(米沢市) 大通池(高畠町) 谷筋(山形市) 小松屋(山形市) 中 里(米沢市) 一ノ坪(山形市) 荒瀬山遺跡(寒河江市) 山下溝跡(米沢市) 須田野山遺跡(庄内町)	舟 田(酒井町) 志田(山形市) 執行院(鶴岡市) 大 通(酒井町) 山 城(鶴岡市) 山 城(鶴岡市)	舟 田(山形市) 志 田(鶴岡市) 大 通(山形市) 大 通(山形市) 山 城(山形市) 山 城(山形市)	雄略天皇が都をひらく(1192年) 南北朝の乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	マグナカタル制定 チングルムン・延喜 ダンテが活躍		
約650年前	室 町 時代	木の下駒跡(鶴岡市) 舟川橋城跡(大江町) 荒木城跡(山形町)	柳沢A(鶴岡市) 山本鳥城(東根町) 長岡山(南陽市) 喜多城(鶴岡市)	柳松Ⅱ(寒河江市) 喜多城(寒河江市) 白石館(山形市) 白石館(山形市)	斯波義兼が山形へ入部	柳子島に鉄砲が伝わる(1543年) 蘿田信長安土城を築く(1576年)	明王廟がおこる マゼラン世界一周	
約530年前	安 土 朝 山 代	丸岡城跡(新庄市) 稚原遺跡(米沢市) 天王道(南陽市)	舟 田(酒井町) 志田(山形市) 执行院(鶴岡市) 大 通(酒井町) 山 城(鶴岡市)	舟 田(山形市) 志 田(鶴岡市) 大 通(山形市) 大 通(山形市) 山 城(山形市)	喜多城が豪傑を増強する(亀ヶ城本館 1584-1600年)	豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戰(1600年)	オリオオガ活躍 イケイデ社设立	
約400年前	江 戸 継 続 代	中山城(上山市) 大在冢遺跡(高畠町)	新庄城(新庄市) 國音堂(山形市) 又町(山形市) 鶴(鶴岡市) 酒(山形市)	二 条(東河原町) 直 台(長井市) 義 王寺跡(小国町) 波之上(山形市) 精 磨(西川町)	龍土氏改善(1622年)	越川家康江口に墓地をひく(1603年)	江戸開港がおこる アメドセイ立 フランス革命 リンカーンが活躍	

平成18年度 発掘調査遺跡位置図



平成 18 年度 発掘調査遺跡一覧

No.	道路名 (市は御古道跡)	所在地	調査期間	調査面積	調査原因・調査目的	主な時代・種別	調査主体
1	上野道路（第2次）	南陽市大字上野字上野他	18.5.8 18.9.26	2,500	農地環境整備事業（上野地区）	縄文・弥生・古墳・中世 集落跡	
2	中川原C遺跡（第4次）	新庄市十日町字中川原	18.5.11 18.7.7	1,000	野中地区ふるさと農道 緊急整備事業	縄文・中世 集落跡	
3	石畠遺跡	南陽市金山川西字石畠	18.5.15 18.8.10	2,000	主要地方道山形南福線 改良工事	縄文・弥生 集落跡	
4	榎原遺跡（第1次）	南陽市西落合	18.8.21 18.9.22	1,250	主要地方道米沢南福白堀線 改良工事	平安・中世 集落跡	
5	榎原遺跡（第2次）	南陽市中落合他	18.5.9 18.11.9	7,400	一般国道113号赤湯バイパス 改良事業	平安・中世 集落跡	
6	上大作遺跡	南陽市大字砂塚字大作裏	18.8.21 18.11.9	1,800	一般国道113号赤湯バイパス 改良事業	縄文・弥生・平安 集落跡	
7	天王遺跡	南陽市大字唐山字天王	18.5.10 18.11.17	6,500	一般国道113号赤湯バイパス 改良事業	奈良・平安時代・中世 集落跡	
8	百利田遺跡	南陽市大字鳥貴字百利田	18.11.20 19.1.26	700	一般国道113号赤湯バイパス 改良事業	縄文・中世 集落跡	
9	中山城跡（第2次）	上山市中山字上郡武	18.4.24 18.11.10	8,841	一般国道13号上山バイパス 改良事業	縄文・平安・中世・近世 城館跡・散居地	財團法人 山形県埋蔵文化財 センター
10	加藤屋敷遺跡	南陽市川棚字加藤屋敷	18.5.17 18.11.24	4,400	一般国道13号上山バイパス 改良事業	縄文・古墳・平安・中世 集落跡	
11	下叶水遺跡	小国町大字叶水字下叶水	18.5.8 18.11.22	5,900	横川ダム建設事業	縄文 集落跡	
12	福山城跡（第2次）	米沢市万葉町桜山字福山	18.7.18 18.8.4	200	東北中央自動車道建設 (福島県境～米沢間)	中世 城館跡	
13	山ノ下遺跡	米沢市万葉町桑山字山ノ下	18.5.9 18.7.31	3,000	東北中央自動車道建設 (福島県境～米沢間)	縄文・平安 集落跡	
14	興星川原遺跡（第3次）	鶴岡市大字田川字興星川原	18.5.8 18.11.30	4,750	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	古墳・平安 集落跡	
15	行司免遺跡（第3次）	鶴岡市大字水沢字行司免	18.4.17 18.11.30	2,100	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	奈良・平安 墓・祭祀跡	
16	矢馳A遺跡（第3次）	鶴岡市大字矢馳字上矢馳	18.4.17 18.11.30	13,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	古墳・奈良・平安 集落跡	
17	木の下館跡（第3次）	鶴岡市大字水沢字木京他	18.4.17 18.7.14	750	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	中世・近世 城館跡	
18	玉作1遺跡（第2次）	鶴岡市大字中清水字玉作	18.7.3 18.8.31	3,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	古墳・奈良・平安 集落跡	
19	岩崎遺跡	鶴岡市大字下清水字岩崎	18.5.8 18.9.22	5,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	古墳・奈良・平安 官衛跡・官衛開闢施設	
20	南田遺跡	鶴岡市大字清水新田字南田	18.5.9 18.11.30	3,400	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)	古墳・奈良・平安 集落跡	
21	石築道路	天童市貴津	18.9.11 18.9.25	570	開発対応	平安 集落跡	山形県教育委員会
22	空沢道路	長井市大字寺宇空沢	18.11.15 18.11.24	150	開発対応	縄文 集落跡	
23	大在家遺跡	高畠町大字高畠	18.4.10 18.7.7	500	開発対応	奈良・平安・近世 集落跡	高畠町教育委員会
24	花沢A遺跡	米沢市駅前3	18.5.31 18.7.31	416	開発対応	縄文 集落跡	米沢市教育委員会
25	岸元田星敷道路	米沢市岸元町	18.8.7 18.8.15	98	開発対応	古墳・中世 集落跡・城館跡	
26	高瀬山遺跡	寒河江市大字寒河江	18.6.26 18.7.31	400	開発対応	古墳・奈良・平安 古墳・集落跡	寒河江市教育委員会
27	高橋城跡	山辺町大字山辺字芦沢	18.9.25 18.11.20	2,208	開発対応	中世 城館跡	山辺町教育委員会
28	小山崎遺跡	遊佐町吹浦字七曲堰東他	18.6.28 18.9.14	268	学術調査（重要道路確認調査）	縄文（早期～晚期） 低湿地遺跡	遊佐町教育委員会
29	高安窯跡	高畠町大字高安	18.8.1 18.8.31	27	学術調査	飛鳥・平安 窯跡	東北芸術工科大学
30	左沢柄山城跡	大江町大字左沢字柄山	18.11.6 18.11.22	100	学術調査	中世 城館跡	大江町教育委員会
31	須迎野A遺跡	庄内町軒煎字中沢	18.9.12 18.9.19	20	学術調査	縄文・平安・中世 遺物包藏地	國學院大學
32	真木遺跡	朝日町大字松程	18.10.1 18.10.31	1,000	学術調査	旧石器 散居地	日本考古学协会会员
33	鳴遺跡	山形市鳴	18.7.18 18.10.23	600	保存目的の確認調査	古墳 集落跡	山形市教育委員会
34	丸岡城跡	鶴岡市丸岡字町の内	18.7.14 19.3.31	250	保存目的の確認調査	中世・近世 城館跡	鶴岡市教育委員会

なかやまじょう 中山城跡 第2次

県遺跡番号	平成7年度新規登録
所在地	上山市中山字上郭武
現地調査	18年4月24日～11月10日
調査面積	8,841 m ²
調査原因	一般国道13号上山バイパス 改築事業
種別	城館跡・散布地
時代	縄文・平安時代・中世・近世

戦国時代に築城されたとされる中山城は、上山市の南西端、上山盆地と米沢盆地の間にある山間の細長い平地に位置しており、標高343.9 m の天守山に築かれた山城です。伊達氏、蒲生氏の支配を経て、1598 年に上杉氏の領地になりました。石積みの物見台のある本曲輪、二の曲輪、三の曲輪が良好な状態で残っています。南北には天然の渓谷、東側には標高 282.5 m の前森山と称する小高い山があり、天守山と前森山の間の急傾斜な狭い箇所に、上杉氏家臣 24 家の武家屋敷跡（家中屋敷）と段差のある曲輪跡があります。

今年度は、家中屋敷北側を調査した昨年度に続く2次調査で、草刈家南側、尻高家、小中丸家、上大石家、斎藤家と曲輪跡を中心に調査を行いました。また、県文化財保護室の試掘で縄文土器が出土した南側の櫛沢沿岸が、今年度調査範囲に追加されました。

1次2次両調査区内には、上杉氏家臣 24 家のうち 15 家が置かれています。武家屋敷跡と曲輪跡に関する遺構は、武家屋敷跡の石積み、掘立柱建物跡、礎石建物跡、土坑、井戸跡、道路跡、溝跡、埋設桶遺構、柱穴跡、墓跡があります。縄文時代の遺構としては、石組みや縱長の土坑、ピット群、落ち込み状の遺構が確認されています。また、平安時代の石で囲った屋外炉が検出されています。



武家屋敷跡と曲輪跡からの出土遺物は、中近世から現代に生産されたとみられる陶磁器、同時期の木製品、金属製品、石製品が大量に出土しています。一部中世末にさかのほる中国製磁器や瀬戸美濃の陶器も出土しています。中国製品は、16世紀の景徳鎮窯、龍泉窯の磁器です。珍しいものでは、草刈家から出土した唐津皿屋窯の四角釉はぎの皿(1580～1590)があります。また、伊達氏と深いかかわりのある内耳鍋も出土しました。しかし、大多数が碗、皿、鉢、壺、甕、仏飯器、水滴、火入、香炉、猪口、戸車などの18世紀から19世紀に生産された陶磁器類で、肥前・肥前系のものと、近隣の東北地方の窯で製造されたとみられる在地系の製品です。その他には、石臼、礎臼、石版、砥石、古錢、包丁、キセル、簪、はさみ、角釘、小柄、灰均、鉄砲玉、漆器、曲物、箸、ヘラ、杭、捏鉢、桶、つるべ桶、板、柱根、柱、瓦などが出土しました。特に、1次調査で橋爪家跡から出土した上顎用の木製塗り義歯が注目されます。

1次調査で出土した磁器に入った朱色物質、磁器の底部に付着した朱色の皮膜物質、磁器の底部にたまたた塊、捻った朱色物質は、理化学分析の結果、朱色物質は漆顔料のベ

ンガラ（赤鉄鉱）、皮膜物質はベンガラを混ぜた赤漆であり、底部にたまたま塊は樹脂（漆）と考えられ、捻った物質は格子状に編まれた布にベンガラを混ぜた赤漆が染み込んでいることがわかりました。これは漆を塗る前に濾すために使用した布のようです。また陶磁器の底部のくぼみを漆塗りパレットとして使用していたと聞きますので、家中屋敷で漆塗りが行われていたと伝えられていることを裏付けます。

縄文土器は、前期初めから晩期前半までの様々な時期のものが小さな破片で出土していますが、その中でも多く出土しているのは前期初頭と前期後半の土器です。注目される土器は、縄文時代前期後半の土器（大木5式：^{おんだし}約6,000年前）で、高畠町にある押出遺跡（大木4式）の次に来る時期です。この時期の土器は、山形県内ではあまり出土していません。石器は、石鎧、石錐、石棒のほかに石器を作る時にできるフレイクが出土しています。

平安時代の遺物は、屋外炉の焼土から、熱を受けた土師器や、炉のすぐ近くから須恵器の壊が2つ重なった状態で出土しました。



中山城跡調査区全景



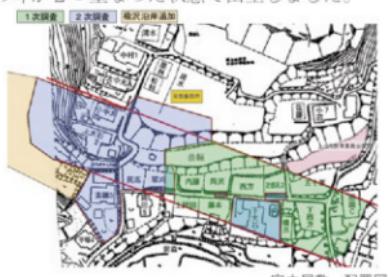
斎藤家跡



下大石家石積み



曲輪跡の調査



家中屋敷 配置図



唐津皿屋窯



内耳鍋



道路跡と
水塚構



義齒



縄文時代前期前半の土器



屋外炉と土師器

ぎょうじめん 行司免遺跡 第3次

県遺跡番号	平成 16 年度登録
所在地	鶴岡市大字水沢字行司免
現地調査	18 年 4 月 17 日～ 11 月 30 日
調査面積	2,100 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道建設 (温海～鶴岡間)
種別	墓・祭祀跡
時代	奈良・平安時代

行司免遺跡は JR 水沢駅から南東に約 1 km のところにあり、大山川左岸の沖積台地上に立地し、標高は 16 ～ 17m を測ります。

昨年と今年の発掘調査の大きな成果として、木棺墓が複数見つかり、平安時代の墓域を確認できました。木棺墓は南北方向と北西方向を向いており、火葬に関わる施設は南北方向を向いていました。火葬に関わる施設はおびただしい炭の層があり、その炭の層の中に骨片が混じっていました。炭の層を掘り下げたところ、角材と木柵、櫛、棒状の木製品が出土しました。

また炭化物が集中する地点が何箇所か見つかり、中には炭化米・土器を含むものや、藁が燃えて炭になったようなものがありましたが、どのような性格なのかは不明です。

行司免遺跡からは土師器・須恵器・赤焼土器などの土器が最も多く出土し、杭や板材などの木製品のほかに、鉄製品や帶金具などの金属製品が出土しました。注目すべき遺物として、底の部分に「穴太（あのう）」と墨で書かれた土器が出土しました。

「穴太」は古代近江の国（現在の滋賀県）の地名にも見られます。また秋田城や払田柵から出土した漆紙文書や木簡には人名として見られます。特に秋田城第2号漆紙文書には、戸主穴太部道石ほか 12 名に出舉が貸し付け



られたという内容の記録が見られ、古代、出羽国（現在の山形県・秋田県）の政治の一端をうかがうことができます。行司免遺跡から出土した「穴太」と墨書された文字が、地名をあらわすのか人名をあらわすのかはまだ分かりませんが、古代の記録と考古資料が結びついた貴重な例といえます。

昨年と今年の調査から、わかったことをまとめると次のようになります。

①秋田城の漆紙文書に記された人名と同じ墨書土器「穴太」が見つかったことは、古代の庄内地方の歴史を解明する上で一つの手がかりと考えられます。

②木棺墓や火葬施設が見つかったことで、当時の行司免遺跡の周辺が墓域の一部であったことが確認されました。まだ、あまり良くわかっていない平安時代の墓制について、これから調査で重要な手がかりが得られることが期待されます。

③役人が着用した帶金具の一部である「鉄具」や「富壽神寶」が出土したことから、付近に役所の跡か役人の屋敷の存在を考えられます。また、木棺墓や火葬施設とのかかわりも考えられるかもしれません。



火葬施設の検出状況



木棺墓の検出状況



火葬施設の掘り下げ



「穴太」と墨書された土器



〔鉗具(かこ)〕



調査区全景

いわさき 岩崎遺跡

県遺跡番号 平成 17 年度登録

所在地 鶴岡市大字下清水字岩崎

現地調査 平成 18 年 5 月 8 日～9 月 22 日

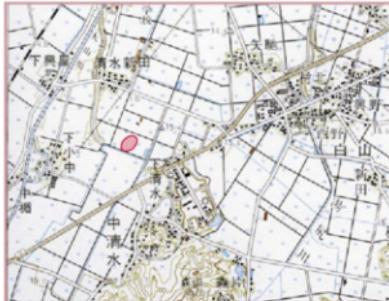
調査面積 5,000 m²

調査原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海～鶴岡間)

種別 集落跡・官衙関連施設

時代 古墳時代・奈良時代・平安時代



発掘調査により、岩崎遺跡は、古墳時代と奈良時代、平安時代の遺跡であることが分かりました。古墳時代では集落、平安時代では官衙に関連する遺跡であると考えられます。奈良時代の遺物は出土していますが、明確な遺構は見つかっていません。

遺跡は大山川右岸に立地しています。現在は平坦な水田ですが、遺跡南方の丘陵の延長部であることから、以前は周囲よりわずかに高い地形であったと考えられます。

古墳時代の遺構は竪穴住居と土坑などが見つかりました。竪穴住居の北側にはカマドが設けられ、北側に排煙用の煙道も付いています。土坑からは多数の土器が出土しました。

遺物では、古墳時代前期の土師器の小型丸底罐と甕などが出土しました。ほかに勾玉や管玉も出土しています。

奈良時代後半(8世紀後半)の遺物では須恵器の高台付坏や円面硯と呼ばれる焼物で

作った円形の硯が見つかりました。円面硯の出土は珍しく、庄内地方ではほかに 6 遺跡から、田川郡域では荒沢窯跡から出土したとされていますが、詳細は報告されていません。

平安時代の遺構は、掘立柱建物、掘立柱列、井戸などが見つかりました。掘立柱建物の中でも調査区の中央部で見つかった 2 棟は、柱の配置から倉庫であると考えられます。柱穴には、柱が残っているものも多数ありました。先を尖らせた杭状の柱などもあります。柱の直径はさまざまですが、太いものでは直径が 30 センチメートルを測ります。

井戸は 6 基見つかりました。中には幾つかの種類が見られます。井戸 1 は、長い板を縦に並べて井戸枠を組んでいました。板は周囲の土の圧力により内側に倒されています。井戸の中からは壺や、薬壺などが出土しました。井戸 2 は、井戸枠として丸太をくり抜いたものが、二段に重ねられていました。ほかに横



調査区全景 (右が北)



倉庫 1



倉庫 2

に木枠を組んだもの、素掘りのものが見つかりました。

遺物では、9～10世紀の須恵器の薬壺、赤焼き土器の壺、斎串などが出土しました。斎串は祭祀に使われたものです。

そのほかにアメリカ式石蹴と呼ばれる弥生時代の石器や近世及び近代の陶磁器などが出土しています。

この遺跡では、古墳時代前期から中期には集落が営まれました。奈良時代の遺構は確認されませんでしたが、円面硯や高台付坏などが出土地しました。希少な円面硯が出土していることから、周辺に官衙関連の施設があったことから、周辺に官衙関連の施設があった

ことが予想されます。

平安時代の遺構・遺物が、最も多く見つかりました。倉庫は現在2棟確認されており、やはり官衙関連施設と考えられます。古代において岩崎遺跡周辺は出羽郡大田郷と呼ばれていたという説（山形県史 第一巻）があります。そばを流れる大山川の水運を利用し、大田郷から集められた税を収納・輸送する拠点としての倉庫だったのかも知れません。

調査では遺跡の性格が分かるような文字が書かれた資料は見つかりませんでしたが、今回の成果は、庄内地方の歴史を解明する手がかりとなるでしょう。



井戸 1



井戸 2

こうやすかまあとぐん

県遺跡番号	高畠町遺跡番号 A-77
所在地	東置賜郡高畠町大字高安
現地調査	18年8月1日～8月31日
調査面積	約27m ²
調査原因	学術調査
種別	窓跡
時代	飛鳥時代・平安時代

高安窯跡群は置賜盆地東部の屋代川流域平野の南側にあります。ここでは窯跡が3地区で確認され、谷奥のC地区が最も古く、A地区、B地区と平野部に近づくにつれて時期が新しくなります。

東北芸術工科大学では、2002年度から高畠町と協力して、本窯跡群の範囲確認調査を行なってきました。これまでの調査ではB地区を4次にわたり発掘し、3基の窯跡と排水溝などの付随施設を検出しました。

A地区は、1996年に高畠町教育委員会が窯跡の一部を発掘調査し、須恵器と瓦を焼いていた瓦陶兼業窯が1基存在する事が確認されました。

今年度行なわれたA地区の調査では、以前の調査でも見つかっていた瓦陶兼業窯(A1号窯)と、その上に炭焼き用の窯(A2号窯)、A1号窯に付随する土坑が確認できました。

A1号窯は全長約5.3mで、燃焼部幅1.1m、焼成部の傾斜角は約17°の地下式直立煙道の窯で、焼成部の床面は2



1号窯焼成部発掘風景



枚です。焼成部の最終操業面では、生焼けの杯Bと蓋が多数出土しました。

A1号窯では、高畠町の調査時には返りのある杯蓋が多く出土していました。しかし今回の調査で、返りのある杯蓋は、窯で焼かれた時に失敗した製品や窯を焚くときに燃え残った炭などを捨てる、灰原で多く確認されました。が、焼成部の中からは返りの無い杯蓋しか見つかりませんでした。

A1号窯全体では返りのある杯蓋と無い杯蓋が共存し、7世紀後葉に操業されていた、という事が分かりました。

土坑からは、A 1号窯で焼き損じた瓦の破片が多数出土しました。ここから出土した瓦は接合するものが多く、一枚の瓦の大きさの分かる事の出来る資料も多数あります。



百中十精選

きさはおよそ長辺で40cm、短辺30cmです。その中には無頬(むかく)（段の無い）の重弧文を有する軒平瓦なども出土しました。

A2号窯は、前庭部から焼成部の一部を検出しました。燃焼部からは大きな板石が多数検出されました。それらの岩石は、燃焼部の構築材だったのではないかと考えています。焼成部では、窯体の右側壁に、細い煙道が確認されました。

このA2号窯は、前庭部から出土した赤焼土器によって9世紀後半～10世紀のものであると考えられます。

今回の調査で、A1号窯では7世紀後葉に操業されていた地下式直立煙道の瓦陶兼業窯であること、瓦と共に仏器的須恵器を多く生産していることが分かりました。A2号窯は平安時代の炭窯であることが確認され、遺跡周辺で輪の羽口が表採された事などを踏まえると、製鉄を目的とした製炭が行われていた可能性があることが分かりました。



2号窯板石検出状況



1号窯 窯体(南から)



返りのある坯蓋



返りのない坯蓋



重弧文軒平瓦

◆ 矢馳A遺跡 第3次

県遺跡番号	1618
所在地	鶴岡市大字矢馳字上矢馳
現地調査	18年4月17日～11月30日
調査面積	13,000 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道建設 (温海～鶴岡間)
種別	集落跡
時代	古墳・奈良・平安時代



矢馳A遺跡は、庄内平野の南西部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地にあって、遺跡範囲60,000 m²におよぶ広大な遺跡です。遺跡付近の標高は14.5mを測り、微高地や背後湿地に立地しています。

第1次調査は、昭和62年に実施され、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が確認されました。それらの調査を受け、今回の調査は、日沿道の建設に先立って第1次調査区の南側で平成17年より実施されています。昨年は複数の河川跡や古墳時代の遺物包含層の存在を把握することができ、今年度は事業地区本体部分について調査が進められました。

今次調査では、古墳～中世の遺構が検出されました。

A区では奈良～平安時代のものと思われる竪穴住居跡や河川跡などが検出され、住居跡からは土師器、紡錘車、底にヘラ書きのある須恵器が、河川跡からは小型の壺や墨書のある壺等多くの須恵器や木製品などが出土しています。

B区では、奈良～平安時代の住居跡や畝状遺構が検出されました。また、ほぼ南北方向に走る2条の河川跡も検出され、須恵器や木



調査区全景(北東から)

製品などが出土しています。

C区東部では柱穴跡・井戸跡等が検出され、これらの遺構を囲むような形で一辺50m程の方形の溝跡が検出されました。柱穴跡の一部は掘立柱建物を構成すると思われます。また井戸跡からは、井戸組みの木枠や曲物、壺串も出土しています。瀬戸等の陶磁器が出土していることから、柱穴跡・井戸跡の中には、中世の遺構も含まれると考えられます。C区中央部・西部では多くの河川跡や溝跡が検出され、窓坏をはじめ、壺、鉢、甕等の古墳時代のものと思われる土師器が多数出土しました。

D区では近世から近代にかけての堰跡と護岸用の板組みが検出され、古銭等の遺物が出土しています。



豊穴住居跡(北から)



河川跡断面 (上) A区 (西から) (下) B区 (北から)



豊穴住居跡出状況(北から)



遺物包含層出土状況(南から)



井戸跡の木枠及び曲物出土状況(北から)



土師器甕出土状況(東から)



(左) 畜串出土状況 (南から) (右) 河川跡より出土した畜串



包含層より出土した高环



河川跡より出土した木皿

下叶水遺跡

県遺跡番号 1426

所在地 西置賜郡小国町大字叶水字下叶水

現地調査 18年5月8日～11月22日

調査面積 5,900 m²

調査原因 横川ダム建設事業

種別 集落跡

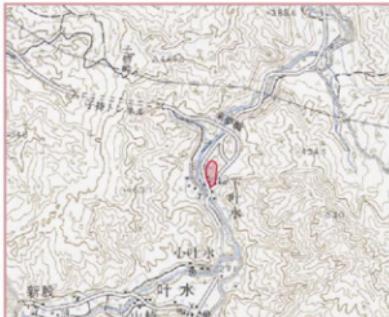
時代 繩文時代

今調査では、縄文時代後～晩期(約3,000年前)の集落跡と河川跡が確認されました。

集落跡は、調査区中央を流れる河川跡の両岸や、河川西側に弧状に広がるようです。集落跡では、建物の柱穴跡や、貯蔵穴と考えられるフ拉斯コ型の土坑跡などが検出されました。建物は、4本柱を基調とし、大型の柱穴には柱を固定する根固め石が設置されます。また、河川の北東側では、深鉢が10基ほど集中して埋められ、当時の墓域(埋設土器群)と考えられます。

河川跡からは、上層から油脂箱で600箱以上の土器や石器がまとまって出土しました。土器では、一般的な深鉢や鉢類の他に、急須形の注口土器や、三文様や赤彩された精密な皿、壺も出土しました。石器では、矢じりや石槍など狩猟の道具、木の実を調理するためのくぼみ石や磨石などが1000点以上あります。また、土偶(土製の人形)や土笛、石棒・石刀などのお祭りに使われた道具も出土します。他に漁労のための土錘(土製のおもり)なども出土し、当時の多様な生活が分かります。

今調査の大きな成果としては、①県内では少ない当時の集落全体の構成が分かる事、②多量の土器相から隣接する他地域(北陸地方)との関連がうかがえる事があげられます。



急須形の注口土器



弓矢につけた矢じり



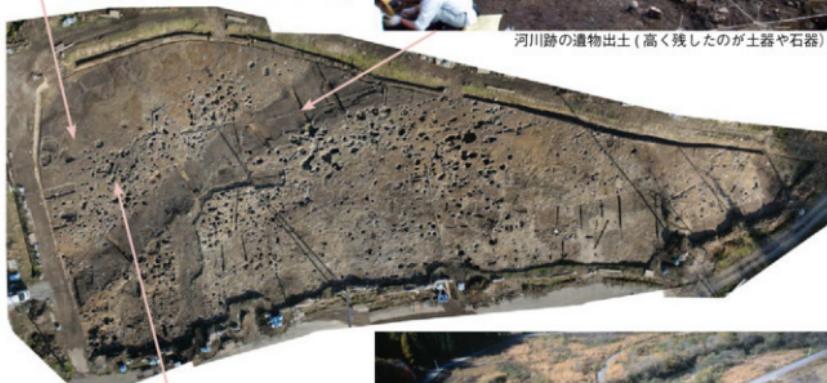
お祭りに使われた土偶(土製の人形)



埋設土器群(土器が並んで埋められています)



河川跡の遺物出土(高く残したのが土器や石器)



河川東岸の柱穴・土坑群(川に沿って帯状に分布)



河川西岸の柱穴・土坑群(川に沿い帯状・弧状に分布)



炭化したクリが出土した土坑(下層の黒い炭化層から出土)



根固め石のある柱穴跡(中央の黒い部分が柱痕)

いしづたけ 石畠遺跡

県遺跡番号	南陽市 M - 1
所在地	南陽市金山川西字石畠
現地調査	18年5月15日～8月10日
調査面積	2,000 m ²
調査原因	主要地方道山形南陽線改良工事
種別	集落跡
時代	縄文時代・弥生時代・近世

本遺跡は、南陽市北部の金山地区に所在し、吉野川右岸の段丘に立地します。

今回の調査では、総数約300ほどの遺構が検出され、土坑・溝跡・沢跡・ピット群・井戸跡などがあります。

土坑と認められるものは、約20基あり、径50cm～1m、深さ50～60cmのものが一般的ですが、中には深さが1mを超えるものもありました。調査区の北側から主に検出され、集中して掘られたようです。用途としては不明ですが、縄文時代中期～晩期にかけて作られていました。

溝跡は、主に調査区の南側から検出され、東西方向に走るものが複数ありました。いずれも浅く、遺物もわずかに出土するだけでした。南側の調査区北西角から沢跡も見つかり、東に進むにつれて落ち込んでいきます。中から縄文晩期の壺や鉢の小破片が出土しました。

柱穴は、調査区北側に多く、径が50cmを超えるものが点在していました。調査区の幅が狭く、建物跡であるか不明な部分がありますが、縄文後期～晩期にかけて建造物が作られていた可能性があります。

遺物は60箱出土しており、縄文時代の土器や石器が大半です。土器は後期を主体に縄文中期から弥生時代中期まで認められます。



石器は、石鎌や石匙などが見られます。石材は、頁岩を用いたもの他に鉄石英のものもあります。

この度の調査では、調査区が河岸段丘の川縁にあるため、生活の拠点となる居住域から外れているようです。生活の拠点は、調査区の西側の高位段丘にあったのではないかと考えられます。



調査区全景



土坑・柱穴群



柱穴断面



土坑断面



縄文時代の注口土器出土状況



縄文時代の深鉢出土状況



沢跡検出状況

こやまざき 小山崎遺跡 第13次

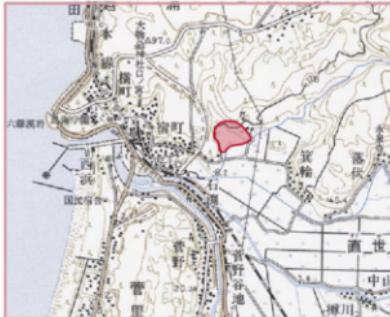
県遺跡番号	2214
所在地	飽海郡遊佐町吹浦字七曲堰東他
現地調査	18年6月28日～9月14日
調査面積	268 m ²
調査原因	学術調査（重要遺跡確認調査）
種別	低湿地遺跡
時代	縄文時代（早期～晩期）

小山崎遺跡は庄内平野の北端が鳥海山の南西麓に接するところ、月光川が注ぐ日本海の東1.6kmにあります。遺跡の南にはいま鮭が潮上する牛渡川があり、標高は丘陵上で約6m、水田はわずかに1.7mです。

この遺跡は1995年に県営圃場整備事業のために試掘調査が実施されて、希少な低湿地遺跡であることがわかりました。泥炭層が獸骨・魚骨・骨角器や木製品・木の実など有機質の遺物を腐食せずに保存していました。深いほどに古い時期の土器や石器が堆積しており、縄文時代の晩期前葉から早期後葉までさかのぼることが確かめられています。

調査は7次までが県教育委員会、8次からは遊佐町教育委員会が主体となって継続しています。最近の調査の目的は、低湿地に幾多の遺物を残して中心となった、後期縄文人の集落の位置を探すことでした。

昨年の12次では低湿地を調査していますが、今年の13次は丘陵面北半と山麓斜面に96カ所の試掘坑を設けて分布を調べ、遺構や遺物の保存状況から4カ所の調査区を発掘しています。その結果、岩石が露出する丘陵上にも晩期の縄文人が居住していたこと、そして驚いたことに後期などの縄文人は、山麓の傾斜面にまるで段々畑のように家屋を構築していた可能性が強まりました。



航空写真 ◎が小山崎遺跡



第1回調査区

(調査区の上部傾斜面一帯の森林の中に小山崎遺跡で生活していた縄文時代後期の人々の集落が広がっていることが確認されました。)



第三調査区

(後期中葉を中心とする遺構群です。炉の跡や柱穴が見つかりました。低湿地に構築物や遺物を残した人々の生活に直結する場所です)



集石遺構(石核が多数発見)



上野遺跡 第2次

県遺跡番号	平成 16 年度登録
所在地	南陽市大字上野字上野ほか
現地調査	18 年 5 月 8 日～6 月 19 日 18 年 9 月 4 日～9 月 26 日
調査面積	2,500 m ²
調査原因	農地環境整備事業
種別	集落跡
時代	縄文・弥生・古墳時代・中近世

上野遺跡(第二次)は、南陽市の上野集落から南西に張出す段丘上に位置します。調査は昨年度の調査区の北東端から東に延びる果樹園(7区)と、南端から南東に約 50 m 離れた水田(8・9区)の2箇所で行いました。

7区からは約 150 基の柱穴が検出され、ほぼ等間隔で直列に並ぶ中近世の掘立柱建物跡と考えられる建物跡 4 棟を検出しました。また、調査区東端の砂層部では、柱材が辛うじて残された柱穴を 6 基ほど検出しました。8・9区では、縄文時代の河跡・土坑、弥生時代の溝跡、古墳時代の杭跡、中世の土坑等が確認されました。

出土遺物の点数はわずかですが、中世の在地産と推定される須恵器(壺蓋・鉢等)やその他の陶器および中国産の青磁碗、近世の磁器染付等が出土しています。昨年の調査区に隣接する7区の西側においては縄文土器片と石器が、一箇所に集中して出土しています。



須恵器・青磁

じきそめつけ

せいじわん

中国産の青磁碗、近世の磁器染付等が出土して

ています。昨年の調査区に隣接する7区の

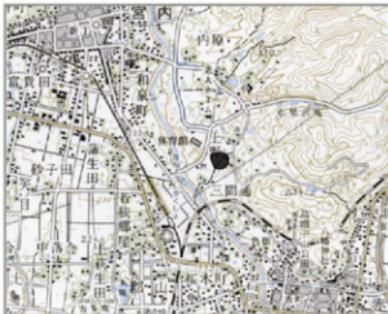
西側においては縄文土器片と石器が、

一箇所に集中して

出土しています。



縄文土器片



7区掘立柱建物跡完掘状況



7区 SP616 柱材検出状況



8・9区完掘状況

なかがわら 中川原C遺跡 第4次

県遺跡番号	平成8年度登録
所在地	新庄市十日町字中川原
現地調査	18年5月11日～7月7日
調査面積	1,000 m ²
調査原因	野中地区ふるさと農道 緊急整備事業
種別	集落跡
時代	縄文時代・中世

中川原C遺跡は、泉田川の形成した段丘上に位置しています。

今回の第4次調査では土壌・溝跡・河川跡・ピット群などが見つかりました。土壌などは調査区中央部の地形的に高まり部分に密集して見つかりました。土壌は6基確認しました。南東側端の斜面部には谷状の遺物包含層があり、北西側端には河川跡が見つかっています。特に東端の谷部分からは多数のピットと縄文時代の遺物がまとまって見つかりました。

遺物は、縄文時代の土器や石器・石製品・中世以降の陶磁器・古銭・碁石などが見つかりました。土器は縄文時代中期と後期初頭の頃(約4000年前)の土器と考えられます。石器は石鎌・石匙・甕状石器・石錐などがあり、特に漁撈に関連すると思われる「石鍤」が40個以上出土していることが特徴です。また、「水晶」が出土しました。ほぼ完全な形のため信仰的なものか装飾品等として使用されていたと考えられます。

これまでの調査から、中川原C遺跡の西南部には縄文時代中期の集落が広がり、今回調査した東南区域には縄文時代後期の集落が広がることわかつてきました。また、東には中世(鎌倉時代)の建物跡があることを考えると縄文時代と中世の大規模な遺跡であることがわかつてきました。



遺跡全景 東から



遺構調査状況 南から



包含層下の遺構検出状況

△ 檜原遺跡 第1次

県遺跡番号	平成8年度登録
所在地	南陽市西落合
現地調査	18年8月21日～9月22日
調査面積	1,250 m ²
調査原因	主要地方道米沢南陽白鷹線 改良工事
種別	集落跡
時代	平安・中世・近世・近代



本遺跡は、南陽市南部、沖郷地区に位置し、上無川西岸の自然堤防上に立地しています。

今回の調査で見つかった遺構は、掘立柱建物跡・土坑・溝跡・柱穴などです。概ね中世～近代の時期のものです。

調査区の南側では、東西に走る溝跡以南に柱穴群が確認され、複数の建物跡が検出されました。上記の溝跡は、断面形がV字形で、薬研堀を思わせます。また、調査区を南北に走り、北側でL字に屈曲する溝跡も検出されています。遺構の底面から中世陶器が出土しました。幅の広い溝跡も検出され、近世初頭の陶磁器も出土しました。溝跡を壊している近代の土坑が見つかっています。

調査区の北側では、幅1mを超す土坑や多数の小さな柱穴が検出されました。柱穴群は、調査区の西側に偏って見つかり、建物跡は調査区の周辺に広がるものと考えられます。



遺跡遠景（南上空から）



L字に屈曲する溝跡（北から）



南側の建物群（北から）



北側の土坑断面（南から）



中世陶器



近代の遺物（南から）

◆ 檜原遺跡 第2次

県遺跡番号	平成8年度登録
所在地	南陽市中落合ほか
現地調査	18年5月9日～11月2日
調査面積	7,400 m ²
調査原因	一般国道113号 赤湯バイパス改築事業
種別	集落跡
時代	平安時代・中世

檜原遺跡は、吉野川と織機川に形成された扇状地の扇尖部、上無川の自然堤防上の微高地に立地し、標高は約222mを測ります。

A区では中世を中心とする遺構が確認されました。掘立柱建物跡4棟は密集していて建て替えが行われたようです。中には、両面に庇を持つものもありました。付属する施設として、木製の枠を持つ井戸跡1基のほか、6基の井戸跡と堀跡を確認しました。幅およそ2m、深さ80cmの区画溝も見つかりました。

B区の遺構は平安時代のものです。3～4m四方程の竪穴式遺構が3基、ほかに溝跡・河川跡などが確認されました。ここでは、床や壁が真っ赤に焼けた19基の遺構が見つかっています。多くは方形で、およそ9m×2mの大きさのものもありました。出土遺物がほとんどないこともありその性格については調査中ですが、土師器焼成や製鉄、鍛冶などの生産にかかる遺構、あるいは火を使った祭祀の場であった可能性があります。

河川跡からは土師器・須恵器が多数出土し、そのほとんどは灰や甕です。ほかに中世陶器・古銭・近世陶磁器、縄文土器や石鏡も出土しました。柱穴から基礎板や基礎石も見つかっています。縄文土器や石器の出土は、近くに縄文時代の遺跡があることを教えてくれます。



調査風景



木製の枠を持つ井戸跡



焼土遺構

かみおおさくうら 上大作裏遺跡

県遺跡番号	平成 17 年度登録
所在地	南陽市大字砂塚字大作前ほか
現地調査	18 年 8 月 21 日～11 月 9 日
調査面積	1,800 m ²
調査原因	一般国道 113 号 赤湯バイパス改築事業
種別	集落跡
時代	縄文・弥生・平安時代

南陽市街地から西方約 4.5 km に位置し、縄文・弥生・平安時代の三時期の集落跡と推測される遺跡です。今回の調査では、河岸段丘の端部にあたる遺跡範囲の東端域を対象としました。調査の進行に伴って、東側および南側の段丘縁辺部に遺物を多く含む堆積層の存在が確認されました。

見つかった遺構には、縄文時代の陥穴、縄文または弥生時代の土坑やビット（柱穴）、平安時代の土坑や畝状遺構などがあります。このうち、出土遺物などから掘られた時代が明らかなものは一部に限られます。調査区内に住居跡が見当たらないことから、当地が各時代のムラの一部であったことは推測できますが、居住域は北側の微高地にある可能性が考えられます。1 基見つかった縄文時代の陥穴や、平安時代の畝状遺構の存在から、当地は集落域の外縁として利用され、狩猟場や畑地であったものと思われます。

遺物はその大半が縁辺部の堆積層内から出土しました。弥生土器が最も多く、2 本一対の平行沈線を引いた文様の特徴から、約 2,000 年前の弥生時代中期後半のものと推測されます。ほかに約 5,000 年前頃の縄文土器と石器、平安時代の土師器や須恵器、それに時期不明ですが農耕具の鋤と判断される木製品が 1 点出土しています。



調査区全景



南辺部堆積層の掘下げ



弥生土器出土状況

てんのう 天王遺跡

県遺跡番号	平成8年度登録
所在地	南陽市大字漆山字天王
現地調査	18年5月10日～11月17日
調査面積	6,500 m ²
調査原因	一般国道113号 赤湯バイパス改築事業
種別	集落跡
時代	奈良・平安時代・中世



遺跡は南陽市宮内の熊野大社から南西約4kmに位置しています。調査区の西側で館の堀が見つかりました。堀は幅約8m、深さ1mの規模で人為的に埋められていました。「テンノウサマ」を屋敷神とする大規模な方形館の可能性があります。堀の東側には柱穴や井戸が数多く見つかりました。館の前面に集落があったと考えられます。調査区の南西部から細い溝が並んだ畠状遺構がまとまって見つかりました。畠の跡と考えられます。これらのことから、大規模な堀で囲まれた館の前面に、居住域と生産域が展開する景観が復元できます。

遺物の多くは堀と溝から出土しました。かわらけ、珠洲、瓷器系陶器、青磁、古瀬戸などの中世陶器、木簡や曲物などの木製品、砥石や茶臼などの石製品が出土しています。13世紀から14世紀頃の中世前半のものが中心です。また、堀の最上部から板碑が出土しました。置賜地方に多い家型板碑で、遺跡の近くに立つ文和三年阿弥陀板碑とあわせ、板碑を立てた人々と今回見つかった館や集落の住人との関連がうかがえます。今回見つかった遺構や遺物は周辺に残る石造物や地名などとあわせて、地域の歴史を考える上で貴重な資料となります。



調査区全景



堀の跡



調査区中央の2条の溝跡

かとうやしき ◆ 加藤屋敷遺跡

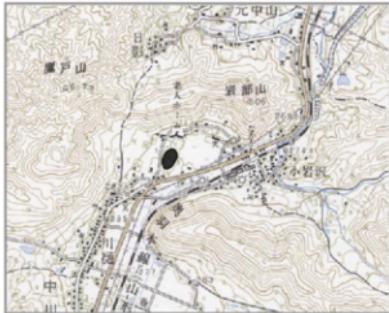
県遺跡番号	平成 17 年度登録
所在地	南陽市川樋字加藤屋敷
現地調査	18 年 5 月 17 日～11 月 24 日
調査面積	4,400 m ²
調査原因	一般国道 13 号上山バイパス 改築事業
種別	集落跡
時代	縄文・古墳・平安時代・中世

加藤屋敷遺跡は、鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地に位置しています。

今年度は、調査区を A 区～E 区に分けて調査しました。C 区と D 区では 6 棟の竪穴住居跡が見つかり、すべてに据付のカマドの跡が確認されました。カマドは白い粘土で作られていきました。また、どの住居跡からも、木炭や焼け土が多く見つかっており火事になった可能性があります。その他の遺構として、柱根・井戸跡・溝跡・方形周溝状遺構・杭列・川跡なども見つかりました。

遺物は、縄文時代・古墳時代・平安時代・中世・近世の色々なものが出土しました。時代の古い順に、縄文時代後期の土器や石器・石斧、縄文時代の終わりごろの小型の壺形土器、古墳時代の勾玉が見つかりました。住居跡が埋まつた土の中からは、平安時代の土師器・須恵器の甕・土鍋・坏・蓋などの土器が見つかりました。遺構からではありませんが、平安時代の木簡と見られる木製品も発見されました。また、川跡からは須恵器や土師器、木製品に混じってクルミやトチの実が多数出土しました。この他にも、中世の古銭・陶磁器や近世陶磁器が見つかりました。

今回の調査区では、比較的まばらな集落の様子がわかりましたが、この地区は中心部分



とは言えないようです。もう少し上の平坦な場所に遺跡の中心があると考えられます。そのあたりは縄文時代晩期の岩谷堂遺跡といわれています。加藤屋敷遺跡・岩谷堂遺跡の一带は、縄文時代から古墳時代・中世・近世にわたる複合遺跡となる可能性があります。



B 区の方形周溝遺構



E 区川跡遺物の出土状況

いなりやまたあと 稲荷山館跡 第2次

県遺跡番号	米沢市遺跡地図A - 393
所在地	米沢市万世町梓山字稻荷山
現地調査	18年7月18日～8月4日
調査面積	200 m ²
調査原因	東北中央自動車道 (福島県境～米沢)建設
種別	城館跡
時代	中世

本遺跡は米沢市街地から南東約6kmに位置する中世の城館跡です。今回は、当時の構築物として現存する土壘と堀跡を主体に調査を行いました。

館跡は山麓の自然地形を利用し、尾根に面した空間を土壘と堀でL字状に区画して構築されたと考えられます。土壘は何層にも土を積み上げて構築され、堀は土壘と平行して外側に築かれていました。柱穴は内部の建物跡を構築するものの一部と考えられますが、調査区域が限定されていたことからその内容については不明です。

遺物には10数点の土器片があり、置賜地方の中世の遺跡によく見られる内耳土壙片が見つかっています。

稲荷山館跡は南西側にそびえる早坂山を背景として、山麓に築かれた「平城」に分類されます。本館跡は伝承によれば長井氏の家臣、熊坂利衛門の築城とされており、伊達氏の置賜侵入の際に最後まで戦ったが敗れ、廃城になったと伝えられています。梓山付近には10余りの館跡や山城が点在していることから、この地域が古来より交通の要所であったことがうかがわれます。



調査区全景



土壘と堀跡



内耳土壙

やまとした 山ノ下遺跡

県遺跡番号	平成 17 年度登録
所在地	米沢市万世町桑山字山ノ下
現地調査	18 年 5 月 9 日～7 月 31 日
調査面積	3,000 m ²
調査原因	東北中央自動車道 (福島県境～米沢) 建設
種別	集落跡
時代	縄文時代・平安時代



本遺跡は米沢市街地から南東方約 5 km に位置し、縄文時代からの集落跡と推測される遺跡です。その範囲は現況の地形から推察して、東西約 60 m・南東約 100 m と考えられます。

今回の調査では、縄文時代の土坑・陥穴・埋設土器と平安時代から近世までの溝跡や柱穴が見つかりました。埋設土器が単独に 3 点見つかりますが、付近に住居跡は見当たりませんでした。居住域は北側の平坦部にあり、当地が縄文時代のムラの一部であったと推測されます。3 基あった陥穴は獣道に配したことかが推測され、調査区南半の山麓側で検出されました。調査区西端にある谷状のくぼ地からは、平安時代の土器がまとめて出土しました。



縄文時代の埋設土器



調査区全景

出土遺物は破片が多く、その形が分かるものは多くありません。縄文土器は文様が分かるものを観察したところ、縄文時代前期から後期頃の土器と考えられます。平安時代の土器は貯蔵用の甕や食器である壺などが見つかっています。



縄文時代の土器



平安時代の土器

◆ 興屋川原遺跡 第3次

県遺跡番号	平成16年度登録
所在地	鶴岡市大字田川字興屋川原
現地調査	18年5月8日～11月30日
調査面積	4,750 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道建設 (温海～鶴岡間)
種別	集落跡
時代	古墳時代・平安時代



興屋川原遺跡は庄内平野南西部、鶴岡市街地中心部から南西約10kmに所在し、大山川の右岸に位置しています。地形は大山川によって形成された沖積地で、現在の地目は水田です。大山川を挟んで左岸には行司免遺跡があります。

興屋川原遺跡は調査範囲が11,000 m²に及ぶ広大な遺跡で、昨年度から本調査を実施し、古墳時代と平安時代の二つの時代が有ることが判明しました。

今年度、古墳時代の遺構は土師器が投棄された落ち込みが検出されています。そこからは全長18cm余の刀子が出土しました。

平安時代の主な遺構は掘立柱建物群が検出されました。南北に並ぶ2間×4間のSB1002、2間×6間のSB1001掘立柱建物跡



古墳時代土坑より出土の刀子

と東西に並ぶやや小振りの2間×3間規模のSB1003、1004掘立柱建物跡がL字形に配置されていました。比較的大規模な規模の建物が整然と並んで配置されており、一般集落とは考えにくく、何らかの公的性格を持つ建物なのかもしれません。



SB1001 掘立柱建物跡



SB1003、1004 掘立柱建物跡

◆ 木の下館跡 第3次

県遺跡番号	平成8年度登録
所在地	鶴岡市大字水沢字水京他
現地調査	18年4月17日～7月14日
調査面積	750 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡間)
種別	城館跡
時代	旧石器・縄文時代・奈良平安・ 中世・近世



木の下館跡は、鶴岡市街地の南西部、JR羽越本線水沢駅の南約1kmに位置し、丘陵の頂部にあります。

今回の調査で見つかった遺構は、曲輪跡・竪穴住居跡・炭窯跡・柱穴・溝跡などです。

曲輪跡は、断面で7段を確認でき、旧地形である山の形を利用し、斜面を削って構築したことが判りました。竪穴住居跡は、曲輪の2段目の平坦な場所にあり、長さ4m・幅2m、6本の柱穴を伴っています。曲輪の斜面中ほどからは、大きさ2m前後の円形の炭窯跡が3基検出されました。上層からは多量の炭くずが、床面からは真っ赤に焼けた土が確認できました。

遺物は、旧石器時代の石器片や須恵器片・中近世陶磁器片などが出土しました。

今回調査した曲輪跡は、本丸への通り道にあたり、防御する上で重要な役割を果たしていたと考えられます。炭窯の時期は不明ですが、付近にある昨年調査された万治ヶ沢遺跡からも検出されており、形態が似ています。また、竪穴住居跡からは遺物の出土が無く、時期は不明ですが、作業小屋のような施設として使っていたと考えられます。



曲輪跡(南から)



竪穴住居跡(北から)



炭窯跡(北から)

たまつくり ◆ 玉作1遺跡 第2次

県遺跡番号	平成16年度登録
所在地	鶴岡市大字中清水字玉作
現地調査	18年7月3日～8月31日
調査面積	3,000 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道建設 (温海～鶴岡間)
種別	集落跡
時代	弥生・古墳・平安



玉作1遺跡は、鶴岡市の中心市街地から南西約9kmに所在し、興屋川原遺跡と隣接しています。ともに大山川の自然堤防上に立地します。

今回の調査区は、以前のは場整備によって荒廃してしまったものと見られる場所で、残念ですが掘立柱建物跡などの遺構が検出されませんでした。

調査区の中央部から東側では、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積し、流木や木片が多数発見されました。この地区には低湿地帯が広がっていたと考えられます。出土品には、古墳時代前期と後期の土師器片と、平安時代の須恵器片や赤焼土器片などがあります。

今回の調査では、遺構や遺物が検出される層があったとみられる南西側域の一帯が、は場整備で壊されていたため、往時の人々が生活する範囲（集落）を確認することが出来ませんでした。

しかし、中央部から東側にかけて、低湿地が大きく広がることが判りました。古墳時代の集落は水辺に近い微高地に立地していたようです。集落の中心地は調査区の南側にあったものと考えられます。



調査区全景(西から)



作業風景(北から)



遺物出土状況(南から)

みなみだ 南田遺跡

県遺跡番号	平成 16 年度登録
所在地	鶴岡市大字清水新田字南田
現地調査	18 年 9 月 19 日～11 月 30 日
調査面積	3,400 m ²
調査原因	日本海沿岸東北自動車道建設 (温海～鶴岡間)
種別	集落跡
時代	古墳・奈良・平安時代

南田遺跡は古墳時代・奈良時代・平安時代の遺跡です。井戸、土坑、溝、ピット、川跡などが見つかりましたが、住居はありませんでした。よって住居域からは、やや離れた個所であると考えられ、遺跡の中心は調査区の西側になると予想されます。

遺物は主に溝と川跡から出土しました。土器は 8 世紀中頃から後半のものであり、庄内平野では希少な出土例です。『続日本紀』では 708 年に出羽郡が設置されたとされていますが、その中心である出羽柵の具体的な場所は分かっていません。『山形県史第一巻』では、その可能性地の一つとして大山川流域が挙げ



土器出土状況 (川跡 S G 130)



られていますが、出羽柵は 733 年に秋田市まで北進してしまいます。

南田遺跡から出土した土器は、庄内平野に出羽柵が經營されていた年代に大きく近づきましたが、それでも約四半世紀のひらきがあります。8 世紀後半のまと

まったく土器が出土したこと、庄内平野の奈良時代を明らかにする大きな成果になると同時に、出羽柵の所在地はどこだったのかという新たな課題を示したことになります。



出土した 8 世紀後半の須恵器

企画展

ひざい いせき 発掘された被災遺跡

1はじめに

人びとは自然を敬い、自然に学び、自然とともに生き、すぐれた文化を生み出してきました。その過程において幾多の自然の驚異・災害、人々の争いに遭遇してきました。2004年に起きた中越地震から2年が経ちますが、近年は地震だけでなく火山や台風・竜巻など災害の怖さを眼の当たりにしているところです。災害は繰り返すと言いますが、昔から人々は様々な災害に出会い戦ってきました。

災害には大きく自然灾害と人為的な災害に分けられ、主に次のような災害があります。

- ◎自然灾害 地震（地割れ・噴砂等）
地滑り 土石流
- 洪水
- ◎人為的灾害 火災
事故

全国で発掘調査により災害の痕跡が発見されるようになり、注目を集めていますが、山形でもこれまでの遺跡の発掘調査から、過去の災害の痕跡が発見され、数々の情報を提供しています。今回の企画展では、これまで発見された被災した遺跡と出土した遺物の主なものについて紹介します。

2発見された被災遺跡

ゆだまち しながはじ
遊佐町 下長橋遺跡

下長橋遺跡は庄内平野の北、鳥海山麓の水田地帯に位置します。下長橋遺跡の発掘調査では、検出した掘立柱建物跡の掘り方に地震によると思われる変形がみられ、柱の跡も傾



下長橋遺跡で見つかった掘立柱建物跡



地震により変形した掘立柱建物跡の柱穴

いて検出されました。また大規模な帶状の噴砂が最大幅1m長さ15m以上にわたって確認されました。原因となった地震は平安時代の10世紀後半から11世紀の間に起こったとみられます。ここからは祭祀をおこなった穴と遺物も見つかっています。全部で14を数える穴の中には壺や壺・皿・碟がまとめて埋められてありました。地震後の地鎮祭跡と考えられます。天変地異にさいして神々への



壺、皿や小石を詰めた壺が埋められていました

祈りを奉げたものでしょうか。同様な建物の傾いた様子は酒田市生石2遺跡でも見つかっています。

寒河江市 富山2遺跡

富山2遺跡は寒河江市と大江町の境目に位置し、標高170mの谷間に位置する平安時代の集落跡です。遺跡は地滑りの滑落斜面にあり、地滑りした谷間の平坦地に住居が幾たびか建て替えられているのが確かめられま



猿投窯産の水瓶

した。建て替えの間にも小さい地滑りが起きたらしく、住居跡内堆積土の観察から土砂が流れ込んだ様子が見られました。8棟ある住居跡は、狭い範囲に何度も建て替えられていました。特にST38とした住居跡は火災により焼失した住居で、遺物もまとまって出土しました。ここからは800年程前の猿投窯産（愛知県）の水瓶が出土し、注目されました。



地滑りした谷間に営まれた富山2遺跡

寒河江市 三条遺跡

三条遺跡は寒河江市高瀬山に位置する縄文時代から近世にかけての遺跡です。ここからは噴砂の痕跡が見つかっています。噴砂とは



三条遺跡

地中の土砂と地下水が地震の振動を受けて液状になり、地割れから噴き出したものです。三条遺跡では、この噴砂は4条確認されました。地層の観察から噴砂は、下の層から帯状



帯状に噴出した三条遺跡の噴砂

に噴き出していることがわかりました。これを平安時代の井戸が掘り込んでいることから噴砂を起こすような地震が平安時代以前に起きていたことがわかりました。地震当時の地下水の水位や地盤のもろさを知ることができます。

にしかわまち
西川町 水沢館跡

水沢館跡は西川町水沢に位置する中世から近世にかけての山城跡です。ここからは平場や空堀、土塁などが見つかりました。空堀のひとつは、調査の結果、地震によってできた地割れを利用して造られたものであることが



地割れを利用して造られた空堀

わかりました。山城が築かれる前に地割れを引き起こすほどの大きな地震があったようです。また地滑りが館の西側斜面の平場を破壊し、その後作り直している様子も見られました。水沢館跡の現在の地形は地震や地滑りによって、大きく改変を受けていることがわかりました。



空堀の土層断面

てんどうし たかだまみなみ
天童市 高備南遺跡

たちやがわせんじょうち
高備南遺跡は天童市の高備、立谷川扇状地の前縁帯に営まれた古墳時代前期の集落跡です。

ここからは火災により焼失した住居跡(ST202)が見つかりました。住居跡を徐々に掘り下げたところ、炭が床全面を覆っており、梁や垂木といった建物部材の炭化したものが見つかりました。梁材にはほど孔が認め



火災にあった住居跡

られ、垂木材は放射状に見つかりました。住居内には完全な形の土器などが残されていたことから、生活の用具を持ち出す暇もないほど急な出火だったのでしょう。

やきがたし はがれむ 山形市 萩原遺跡



火災に遭い、住居内に残された土器 落跡です。ここからも高擧南遺跡同様、火災により焼失した住居跡 (ST 6 ST10) が見つかっています。住居跡は古墳時代前期のもので、床面に炭化した梁や垂木といった建築部材が放射状に広がって見つかり、土器など火災前の生活がそのまま残されています。炭化した柱材の上には赤色化した土が覆っていたことから、屋根は土に覆われていたと思われます。

3 被災遺跡から学ぶこと

山形県内では今回紹介した遺跡の他にも過去の災害の跡が見つかってきています。

私たちは過去の災害を知ることによって、どのようなところが危ないのか、どのくらいの頻度で災害が発生しているのか、どのくらいの被害を

受ける恐れがあるのか等などを学ぶことができます。

そのためにも我々の祖先が残した遺構や遺物だけでなく自然がもたらした数々の痕跡も注意深く観察して、そして記録に残していく必要があります。

現在、被災の歴史を知るだけでなく、防災関係の機関では調査によってわかったことをもとに災害の周期や地形の理解を進め、今後の防災に役立てる研究や試みも行われています。自然との共生が改めて問われるなか、現代を生きる私たちにとって、遺跡との出会いを、過去の生活の様子を知るだけでなく、自然と如何にして生きてきたのか、これからどのようにして生きていくべきかを考える機会にしたいと思います。



下長橋遺跡から出土した地鎮具

Information

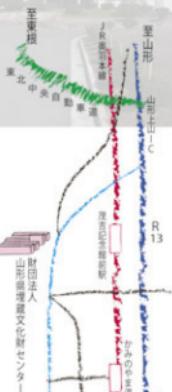
いま
現在 過去から 未来が見える

発掘調査事業

研究・普及事業

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER
FOR
ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

財団法人山形県埋蔵文化財センター



財団法人山形県埋蔵文化財センターは、
遺跡の発掘調査や研究により、過去の
記憶を現在に呼び起こし、調査説明会
や体験学習を通して先人の知恵を未来
に伝えています。

*the forefront of
archaeological excavation
in yamagata*



発行日 平成 18 年 12 月 16 日

発 行 財団法人山形県埋蔵文化財センター

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号

電 話 (023)672 - 5301

ホームページ <http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp